



## 国宝旧開智学校校舎の耐震補強工事

## 旧開智学校校舎 耐震補強イメージ図

※補強のイメージ図です。（実際の補強の様子ではありません）

### ① 概要

平成28～29年度に実施した耐震基礎診断において、大地震時に耐震性能が不足するという判定となったので、令和3年度から耐震対策工事を行っています。完了は令和6年（2024）秋の予定です。

主な補強の内容は、耐力壁補強、基礎補強、水平構面補強です。

### ② 壁補強

構造用合板を片面張りして耐力壁を設けるとともに、壁内の軸部接合部を金物で補強します。また耐力壁の浮き上がりを防ぐため、壁内にタイロッドを通して新たに設けた補強基礎と緊結します。

### ③ 基礎補強

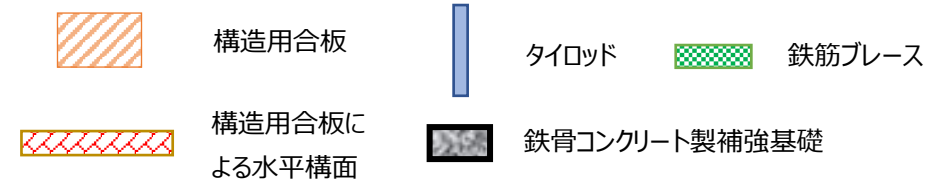
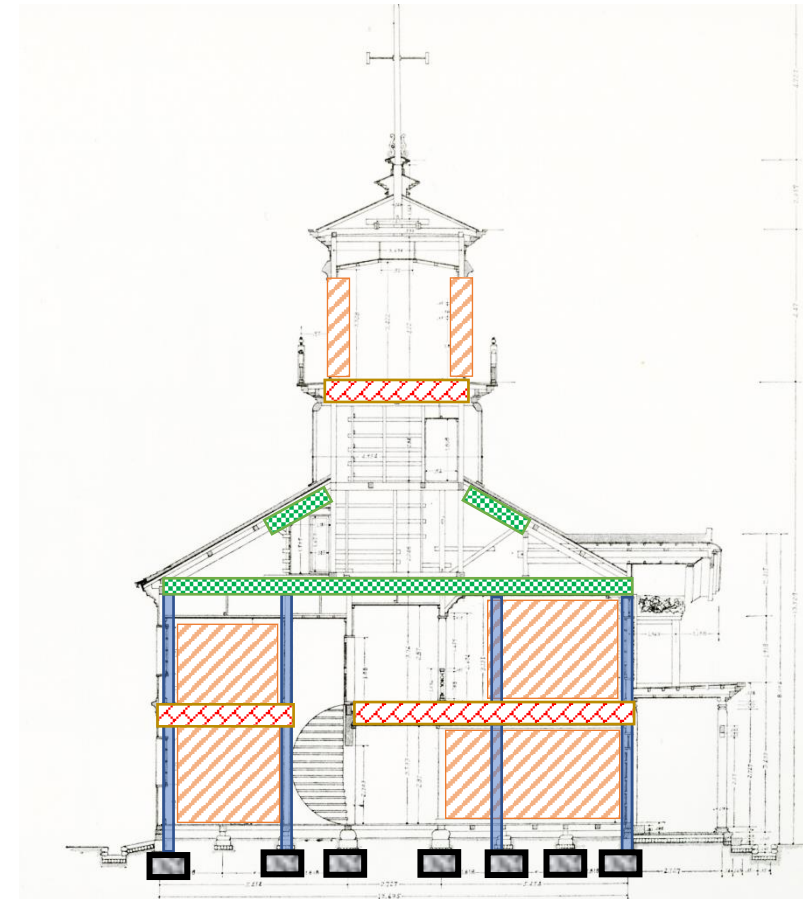
既存の外周布石の内側に鉄骨鉄筋コンクリート製の基礎を設けて壁補強のタイロッドと繋がります。内部は鉄筋コンクリート基礎の上に溝型鋼を設けます。

### ④ 水平構面補強

2階床面と小屋裏には構造用合板等で水平構面を補強します。併せて引張力を負担するタイロッドや鉄製ブレースを設置します。

### ⑤ 塔屋補強

特に耐震性能が低いと指摘された塔屋も同様に、耐力壁設置、鋼製ブレース設置、構造用合板による水平構面補強を行います。塔屋の補強は令和5年度から予定しており、その際は校舎中央に足場を設置します。



## 旧開智学校と地震



○開智学校日誌にみえる地震の記録（主なもの）

年月日	開智学校日誌にみる地震の記録
濃尾地震 1891/10/28	地大いに震える(午前6時45分頃)近來未曾有の強震なり 1、2年生に限り1時間運動場において震動の様子を観察
明治東京地震 1894/6/20	午後1時47分頃地震あり。事務所の時計止まり、桶の水が溢れ出る 居残っていた教員数人が外に出た
霞ヶ浦付近 1895/1/18	午前10時地微動 夜10時50分地震。およそ1分間 東側に掛かっている時計が止まる。ランプが東南から西北へ揺れた
明治三陸地震 1896/6/15	午後8時頃三陸大海で大きな地震。三陸での死者3万余人 <small>※実際は約2万人</small>
陸羽地震 1896/8/31	夕方微震があった
紀伊大和地震 1899/3/7	午前10時頃地震あり
房総半島沖 1909/3/13	午後11時30分頃長時間の地震あり
姉川地震 1909/8/14	午後3時半、近來にない長地震。近江の国惨状を極める
関東大震災 1923/9/1	正午強地震あり。(南から北に揺れるように感じる) 屋外に避難する。幸いにも児童が不在で騒ぎがない。揺れが激しく、 校舎がやや危険な感あり。御影に対して万が一を考慮する
北但馬地震 1925/5/24	昨日午前10時頃兵庫県北部日本海岸を中心とした大地震あり
静岡地震 1935/7/11	地震強震。午後6時半。震央安倍川口(静岡県静岡市)
東南海地震 1944/12/7	午後1時20分。突然強震が来る。全校児童は校庭に避難する。 玄関の鴨居が折れて墜落する。6年2組の西側の壁の一部が落ちる。

### 開智学校の避難訓練

濃尾地震発生直後の11月、開智学校で初めて（記録上）の避難訓練が行われました。“本校のような大校は、有事の際に迅速に非難できなければ大惨事となる”という教員たちの危機意識から実施が決まりました。日誌によると、千人を超す児童がわずか3分で避難を終了したようです。

### 開智学校の避難の仕方

明治30年（1897）頃の開智学校の規則には、災害時の避難方法が定められています。主に、震災等の時に全てをなげうってとにかく避難する「非常退席」と、近くの火事や水害の時に学習道具をもってなるべく早く避難する「最急退席」の2つの避難方法が定められていました。避難時は、鐘の鳴らし方でどちらの方法で避難するかを判断しました。

### 開智学校と関東大震災

10万人以上が犠牲となった関東大震災が発生すると、開智学校では、地震に関する訓話や義援金の募集、被災地への衣類提供などが行われました。教員の間では、根も葉もないうわさに迷わないようにすること、朝鮮人に対し同胞相愛の気持ちをもって接すること、といった児童への訓話の方針が確認されていました。